

## 令和 4 (2022)年度 基盤研究 (S) 審査結果の所見

研究課題名	貧困が子どもに及ぼす影響と地域特性の関連に関する研究
研究代表者	阿部 彩 (東京都立大学・人文科学研究科・教授) ※令和 4 (2022)年 6 月末現在
研究期間	令和 4 (2022)年度～令和 8 (2026)年度
科学研究費委員会審査・評価第二部会における所見	<p><b>【課題の概要】</b></p> <p>本研究の目的は、貧困が子どもに及ぼす影響が、様々な地域特性や自治体における政策によってどのように緩和されるのかをマルチレベル分析や GIS を駆使した分析を行い、各地の子どもの貧困対策を地域の独自の特性を生かした政策にするためのエビデンスを構築することである。具体的には、各自治体が既に実施した子どもの生活実態調査の個票データを統合し、そこに様々な地域特性及び自治体政策のデータを重ねることにより、これらと貧困の子どものウェルビーイングがどのように関連しているのかを分析する。</p>
	<p><b>【学術的意義、期待される研究成果等】</b></p> <p>子どもの貧困と地域格差は現在の日本における大きな課題であり、自治体調査を大規模クロスセクション・データとして活用するという構想には意味がある。また、地域特性を明らかにするために各自治体が個別に実施している調査を統合するという着眼点や、既に複数の自治体とも関係の構築が出来ている点も評価できる。貧困が子どもに及ぼす影響を、剥奪指標に着目して分析する点や、地域特性と地域政策への注目など、新規性は高い。</p>